



南十字星



2020年度 第5号

令和2年5月30日

クイーンズランド補習授業校

ゴールドコースト校

校長 直塚 裕典

E-mail: jschoolgc@jsgc.org.au

第一学期終了を二日早めました！



保護者の皆様、今日で一か月が過ぎようとしています。5月当初は、学習の基盤となる学級づくりを中心とした担任と児童生徒とのコミュニケーションを図りながら、可能な範囲でオンラインまたはメール等による学習サポートを行ってまいりました。この一か月を振り返ってみると、子ども達からは、「早く友達に会いたい。」、保護者の皆様からは、「慣れない環境で親子ともがんばっていますが、少し疲れました。」などの声も上がっていました。そこで、補習校の特性を鑑みた場合、このままの継続は好ましくないと判断し、5月25日付け文書でお伝えしましたように、6月13日を第一学期終了日といたします。

第二学期の始まり予定である7月11日に向けて、補習校として事前の準備や環境づくりを進め、児童生徒が安心して安全に迎えらるるよう着々と整えているところです。今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

～見つけたよ！ ちょっといい言葉！～

...

○ 「笑い」があふれる家庭こそ幸せ。

「笑い」には、心を元気にしたり、

なごませたりする力があります。

一日一回は、笑いましょう！



「校長のちょっと独り言」です！

☆☆☆ ドイツに日本の桜の花が咲いているのを知っていますか？ ☆☆☆

私が以前、ドイツに住んでいた時に「肥沼信次氏を知っていますか」と尋ねられたことがありました。私はその時知らなかったので、「知りません」と答えたのを昨日のこのように覚えています。

肥沼信次氏は、第2次世界大戦前の1937年にドイツに渡ったお医者さんでチフスに苦しむ人々の治療に関わり、自分のことより他の人の治療を優先するために医薬品を走り回って調達し、たくさんのドイツの人の命を救いました。私がいた当時は、日本の桜の花がドイツのある町（リーツェン）に咲いていました。なぜ、ドイツの田舎町に桜が咲いているのでしょうか。それは、チフスの治療をしていた自分もチフスの病にかかり、ベッドの上で「日本の桜が見たい」とつぶやいて亡くなったそうです。それを聞いた人が、わざわざ日本から桜の花を取り寄せ、植えたそうです。また、肥沼氏のお墓がドイツにあり、今でも彼を慕ってお墓参りをしている人がいると聞いています。

今、世界は新型コロナウイルスで困っている人がたくさんおられます。子ども達には、今できることを地道に取り組み、それから幅を広げてほしいと思います。

○「教育とは何でしょうか」・・・子どもが夢をもち、やがてその夢を目標とし、実現のために支援をしていく、時代の如何にかかわらず、教育とはそのようなものではないでしょうか。

子ども達の作文や日記等を紹介します～素直な気持ちが伝わりますね！～

「幼稚部で作ったこいのぼりとお友達への絵のプレゼント」の作品です。



(幼稚部 藤井 笑蓮ちゃん)

(小学1年生の「みつけたよ」「あいうえお」)



(松本海鈴さん)



(レーンアナリースさん)



(田中蓮さん)

(小学3年生の作品)



(竹内寿里彩さん)



(高木海里さん)



(田中魁人さん)

(小学5年生 野田咲愛さん：母の日の思い出)

2020年5月10日は、私がオーストラリアに引っ越して、初めての母の日でした。毎年、母の日には父と弟と三人で、母のためにプレゼントを買ったり、ケーキやお花を買ったりして、母に日頃の感謝の気持ちを伝えていましたが、オーストラリアの店はあまり知らないため、母が喜ぶ準備ができるか、とても心配でした。

母の日当日、朝ご飯を作る予定でしたが、起きるのが遅くなってしまい、朝ご飯の準備をすることができませんでした。とても悲しかったですが、取り返すために頑張ることにしました。朝ご飯を食べてから、近所の店で母の好きなフィッシュ・アンド・チップスを買って、みんなでビーチに行き、海辺で食べました。その後、ビーチで父と弟とボール遊びや砂遊びをしている間に母が読書に夢中になっていたため、そのすきに砂浜に巨大なハートを足で書き、その中に『To Mum, From Sakura and Ryo』と書き、高台に母を連れていき、上から見てもらいました。母はとても喜んでいたので、うれしかったです。その後、雨が降ってきたので慌てて帰り支度をして、帰りの途中でフィッシュマーケットにより、夕食のためにサーモンやマグロなどの刺身を買って、帰りました。

家に帰ってからすぐにシャワーを浴びて、父と弟と三人でバナナマフィンを作って、ご飯を食べた後、プレゼント大会を始めました。今年のプレゼント大会は、ビンゴ大会で、窓に水性ペンで1から20までの数字を書き、母におもちゃの鉄砲で吸盤の付いた弾を撃ってもらい、当たった数字のプレゼントや手紙やチョコレートを渡しました。そして、当たったプレゼントのいろいろな運動が書かれたサイコロを使って、みんなで遊びました。その後、プレゼントのチョコレートを食べました。そして、寝る前に、プレゼントのコロコロマッサージで、母を三人でマッサージしました。母はとても喜んでくれたので、私はとてもうれしかったです。



中学生の作文を紹介します ～素直な気持ちが伝わりますね！～

○【題；お家の人を作るごはんが好きなもの】

(中学3年生 反保 春道さん)

私は祖母が作るグラタンが何よりも好きです。小さい頃も時々作ってくれて今になっても作ってくれます。何回食べても味は飽きず朝昼晩食べ続けても多分嫌になりません。そこらへんのレストランのグラタンとも一味違い、比べ物にならないくらいおいしいです。祖母の作るグラタンは祖母以外には作れない味があると思います。そのせいか祖母のグラタンを食べるとすごく落ち着いて懐かしい気持ちになります。

(中学3年生 ポコック ジョシュアさん)

お母さんが作る僕のお気に入りの料理はカレーです。カレーは凝った料理ではなく、白いご飯とカレーのルーとお肉と野菜というシンプルな料理です。お母さんが仕事の後で作るにも簡単で、しかもおいしいのです。おまけに、たくさん作ると二日位もちます。カレーの辛さを好みに合わせて調節することができます。カレーとご飯のリッチな組み合わせは、食べた後もおいしさの余韻が楽しめます。

○【題；アイスプラネットを読んで】

(中学2年生 汲田 知也さん)

話の中の「僕」のお母さんは、ぐうちゃんの気ままな暮らしが「僕」に影響を与えてしまうから心配で、しかたがないです。それぐらい、ぐうちゃんの影響があると思ってます。「僕」のお父さんは、ぐうちゃんが若い頃に世界のあちこちへ行っていたから、日本の中にもいたら気づかないことがいっぱい見えていて、羨ましいなと思ってます。そういった登場人物の気持ちから、僕はぐうちゃんの生き方とはとても良い生き方だと思います。ぐうちゃんは、ちゃんと働いて仕事をして、貯めてから、そのお金を有効に使って、旅行に行っているからです。だから、僕はお金をかせげる職業を見つけて、友達と一緒に色々なところへ行ってみたいと思います。そして、色々な新しいことを観たり、感じたりしたいです。

(中学2年生 山原 音緒さん)

私はぐうちゃんの生き方には賛成できません。ぐうちゃんはまず居候してぐうたらずにしっかりと仕事をしてお金を稼ぐべきだと思います。そして大人なのだから、居候しているお家に滞在費や生活費などを支払わないといけないと思います。費用を払わないのなら、せめてもっと家事を手伝うべきです。また、世界中を旅するのはとても素敵だと思いますが、そのためにも、しっかりと貯金をしていくべきだと思います。私は、ぐうちゃんのように、人に頼り過ぎる生活には賛成できません。



<保護者の皆様へお願い>

学校だよりにお子さんの作文や活動の様子などをできる限り掲載したいと思います。その場合、氏名や写真などの掲載で何かありましたら担任までご連絡してください。

なお、学校だよりは、世界に発信しています。



【お知らせ】 校長の動画配信について

(今回は、「吉野ヶ里歴史公園の紹介」です)

- ① 5月30日8時30分から6月2日17時まで 配信中
- ② URL <https://youtu.be/gDZHTOvkppl>

または、YouTubeの検索で「直塚裕典」を入力しても見られます。



(吉野ヶ里歴史公園)

